

空の旅

松浦 俊博

昨年末にカタル航空を使ってドーハ経由でローマに旅行した。長距離の空の旅は実に6年ぶりだ、飛行機を楽しむことができた。席は主翼の後部にあるフラップが見える場所。この場所はエンジン音もよく聞こえる。成田とドーハ間は B777 (政府専用機と同種)、ドーハとローマ間は私が乗りたい機種である B787-9 だ。

成田で飛行機に乗り込むと、前の席に取り付けられたディスプレイにフライト状況を映し出す。滑走路で一時停止してエンジンをふかし加速する。40秒くらいで時速 300 kmくらいに達すると機首が上がって離陸する。すぐに車輪を格納する「ガタゴト」という音が聞こえる。そのまま加速して旋回し高度 1500m、時速 500 kmくらいになると、「ウィーン」と音がしてフラップを上げ始める。見ているだけでワクワクする。このまま巡航高度である 9~11km まで上昇する。

巡航中は、コックピットモードとして表示される、高度・気温・速度・迎え角・機首方向と飛行方向のなす角度などの変化を楽しむ。高度 10km 付近には高速のジェット気流が吹いている。飛行機の対気速度は 890 km くらいだが、ヨーロッパから日本に帰るとき 150km の追い風を受けると対地速度は 1040 km で早く着く。日本からヨーロッパに行くとき向かい風を受けると 740 km くらいになり遅く着く。

風の方向は飛行機の進路に対して斜め横から吹くことが多い。そのため飛行機は進路に対して例えば 10 度くらい機首を傾ける。

さらに、飛行機は燃料を消費するにつれて機体の重量が減る。適切な航続率 (燃費のようなもの) を保つため推力を減らす必要があり高度を上げることになる。これをステップアップと呼ぶ。

最初は高度 10km で飛行していたのが、大体 600m きざみで高度を上げていく。最終的に 12km の高度に達することもある。ステップアップのタイミングは機長が決めるようだ。今回は突風を受けて機体が揺れた時にエンジンを噴かせて急上昇した。

今回の空の旅も、充実したものになった。